



門遠 13
2208
卷 18

星月夜顯晦録四篇卷之三

目録

○尼御臺即智决断胤長あまみづのいそくちえん問答とこたへ及およ

胤公いんこう簾れんと捲まけ胤長いんちやうと糾とつとみみ凶あやむ

○胤長いんちやう流刑りゆうけい美盛みさか北条きたじょうが奸邪けんじやと怒誅いかりせんと計はかり

荏柄じんがら平太胤長へいたのいんちやう配所へいじょ奥州おくしゅうへ送らおくるる凶あやむ

○和田朝盛わだあさかみ父と諫美盛いみさかみ荏柄じんがらの宿地しゆくぢと懇望こんぼうと

星月夜顯晦録四篇卷之三

和田美盛の使者横山右馬允時兼が方よ到る因

和田美盛五条局よ就る願と達する因

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



星月夜顯晦録四篇卷之三

尼沙臺即智次断胤長問答及

夫大丈夫の大膽不敵と云はるる貧賤も盛て克ば威武も屈

と能ざる是を真の大丈夫とより美時の胤長が器をわび只管匹

夫の勇死狂の廣言とあふが故に屈伏せざるを怒とよども胤長の

真の大丈夫小近知人物中々唯々る処ハ智慮の足ざるを怨とん扱も

古郡保忠強て連書を乞ふ押披りれば君を筆なり老臣群臣心

耳を澄して承る保忠を承る後上る文のこく

抑今年今月今日同志の衆信州戸隠の神社に會集し猶も

天地神明を驚しまり誓詞を以盟約をわ各誠忠を竭

さんと欲するそ意趣ハ近比ハ条相横守美時控勢の中よく

我意に慕已小宿もの吹巻一己小後さる者ハ修言を梅へ或い
退け或も罪一徳余の権を掌握一君を軽トまり。君此
臣を己が奴婢のやく會釈一栄花栄魁と究忠臣を害一
佞人を愛依怙具負出一中と国家の法令を犯一四海の政を
乱る逆賊の匹夫とを美時を中へ一故右幕下草創の強念
渠が為小奪と誰も敢てんや悲ま成らんや一味同志の
案ハ是と先考の由恩をあると泰山のやく片時の志の時中
を報恩をぬい且ハ為君へ忠勤の為北京美時一家傳教の
事と侏戮一四海の患を除んと欲せ誓約の事々再び外
事を顧るとわく唯前條のゆ一命を抛の旨日夜々々々
忘るくハ忠美のあらくけり畧或ハ成む彼賊が為小命を

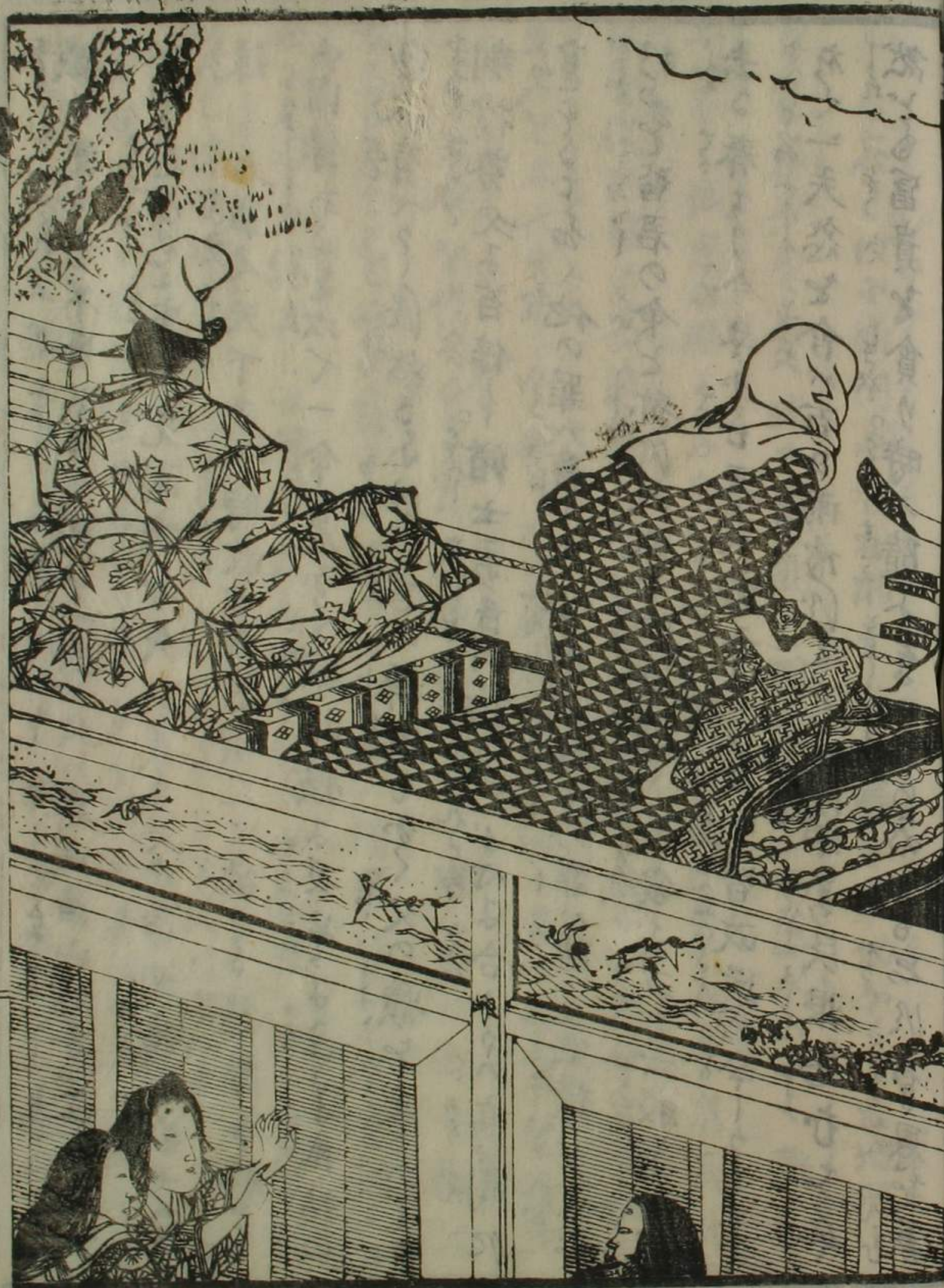
失ふ元来同志の身命ハ先考尚君へ忠美の為小献トも亦
聊厭有べらうさるもの也

右と趣遠背の心あるも小於てわ日中の諸神別して弓箭
神ハ八幡の冥罰を承忽命を為一不忠不美の醜名を
子歳に貶べ一仍誓約如件

建曆二壬申年八月

保忠を凌辱とバ胤長髪盤逆立眼を怒の。大音中くいつに
美時故君の内内縁あるを以て沙布中は横柄一終末君を奪ん
とるを賢者ハ能くを察すも故君を忍と一武将の由恩をぬる。
又時政逆謀を企君を害一まんとせ一初故勇を屈一と父の
非を悔べと小我トも父と一あらびと面は忠臣の形をわ一早速執權の

黒月夜四編卷之三



尼公簾と捲りの胤長と
礼の
図

黒月夜四編卷之三

職を受る。是不義不臣の根中之故が父ハ忠臣畠山父子と亡一仁田
 四郎忠常を害し。先武將を失ひまう。又ハ高武將を弑せんと
 孫一 大罪人天下の人時政が肉を喫人と欲する。怨敵あれども
 内縁あるを以て一命急かく家相續子及号子色する依怙の
 沙汰有べく。然るに汝一言の辞退もかく父の職を失このまう
 刺殺勢父百倍。諸士新民の祈も己が心合ざるハ高聞に
 去る春より今年ハ天変頻あるを皆政道の平一うさる。
 然る一夫怨を合ハ百日雨降びとゆ。況や新民恨悲むを也。
 然ども富貴を貪り時不随ハ孝ハ君の爲とも思ハ辱恩を奉

と一の忘る。汝不伯阿智を能ハて官職を勤功をく。地際と
 ある事教多ある也。政を治乱と國家の危て薄氷のゆく強動
 止肘ハ誠忠の眼よりハ目をするに忍び爰に於て我輩庶民此
 款を救ひ君の爲後患とあるべき汝を誅し我々が身命ハ君不敵ド
 美名を未代ハ姉さんと欲され。怨敵あが。汝ハ君の肉を離れ
 万有 大命を借て中。如人表向に斗身を廻らさバ却て汝に
 妨らばん。とを以て密不忠美の士を集め國家の爲不賊を討んと
 企る是をの係及と云べき。我ハ汝も君の内家臣之汝が悪を誅
 せん。と係不逆心とハ何をも故。今より武將の心中。居る
 う。既に己が罪を礼さんとする我々を吾辨に逆心の企をどく云立
 るハ。誅せん。と欲する。此連判状を以汝が罪の控執とを

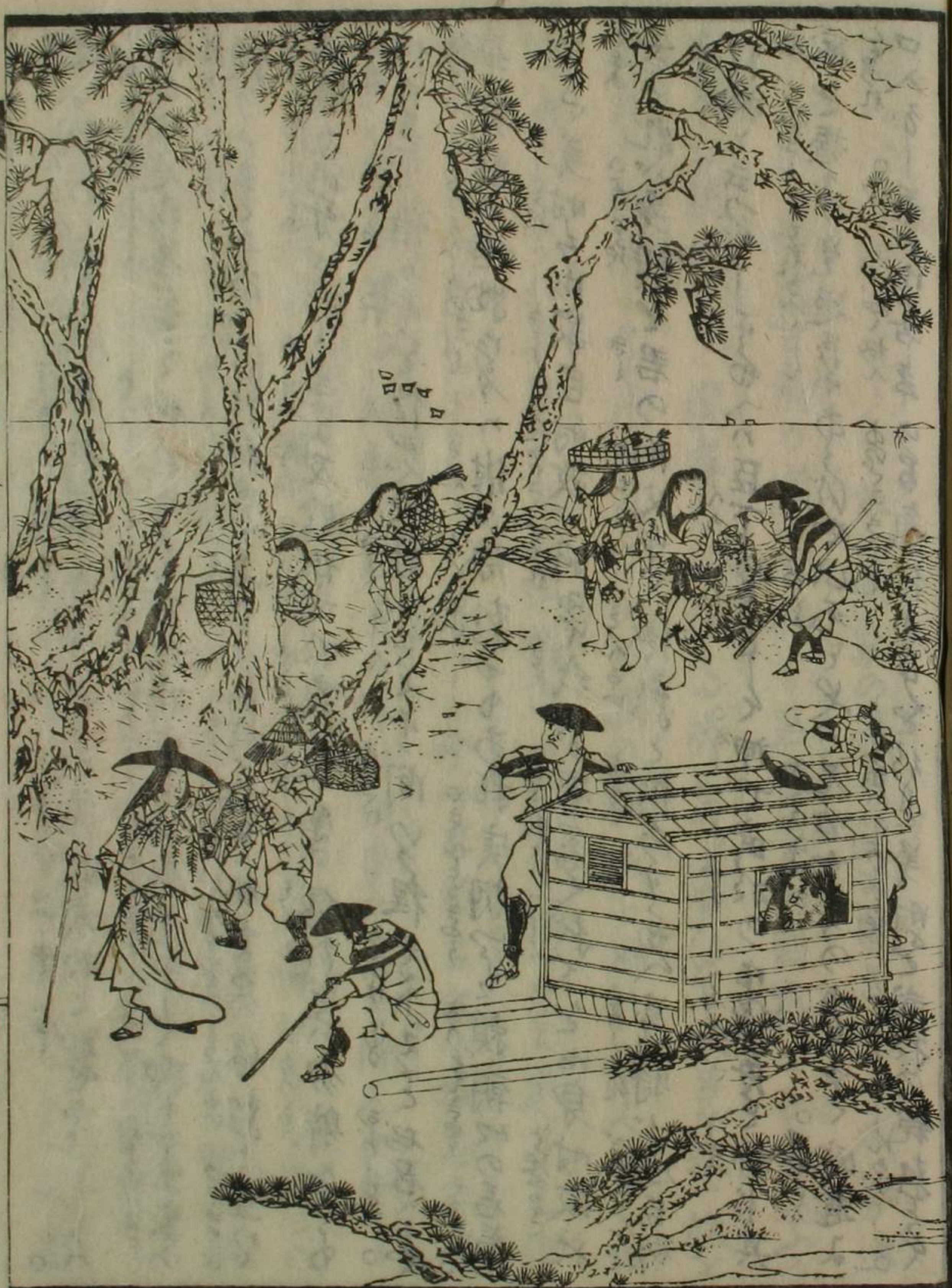
我々君の忠臣故ハ国家の逆臣なり。忠と逆との論は、いふや
 云、誤あり。速小中述よ我聊も逆心あり。志に処は斯の
 一。返答せよ。逆賊美時と恐れ憚る氣色を。居丈高よ。めく。詈
 う。ゆ。傍に扣へ。金窪岳清山城判官を。初め。肝を冷。震ひ。悚
 け。之。君。前。小。象。が。旧。悪。を。算。天下の逆賊と。逆。詈。る。や。へ。廣。元。を
 不。り。列。座。の。位。臣。氣。の。毒。子。万。の。辨。り。一。言。を。發。せ。る。者。や。く。美。盛
 并。小。九。十。余。人。の。一。族。心。地。す。と。ハ。之。也。敢。て。詞。を。吐。き。代。小。象。美。時。日。來
 執。控。の。威。強。き。の。胤。長。よ。罵。辱。し。め。れ。返。答。よ。詰。り。赤。面。一。數。多。の
 老。臣。位。士。の。も。別。り。て。三。浦。一。黨。列。糸。の。席。あり。と。世。念。骨。髓。は。透。り
 元。來。美。盛。亦。子。恥。辱。を。与。へ。笑。口。を。せ。んと。し。ひ。小。却。と。此。次。身。な。る。は
 額。に。汗。を。流。し。普。く。言。句。の。ゆ。り。や。尼。公。も。胤。長。外。の。惡。言。の。身

小象の縁われ。心中大に怒あり。宣入。下もかく。美時言句。此出
 ざうと。悔しと。あせり。おませ。が。忽ち。即。智。の。思。案。を。始。り。され。は。卷。を
 捲。上。させ。自。ら。唇。を。改。め。ひ。婦。の。身。や。く。囚。人。小。問。答。を。中。と。し。か
 不。敬。の。惡。言。を。終。小。捨。置。跡。き。や。へ。道。理。を。い。く。罪。を。犯。す。胤。長
 謀。反。の。張。本。と。し。て。逆。心。を。企。め。ら。口。實。く。云。地。一。子。罪。を。道。人。と
 せ。る。也。天。道。争。う。免。す。べ。き。子。連。判。状。を。遣。り。彼。に。批。かれ。彼。は。此。文
 言。を。い。く。逆。心。に。あ。ら。ぶ。と。い。せ。君。を。取。り。逆。賊。之。今。一。度。子。連。判。状。を
 遣。り。に。傳。ふ。我。の。文。辭。を。い。く。謀。反。の。罪。を。究。べ。んと。宣。ひ。ら。る
 也。古。形。新。た。馬。附。保。忠。小。哭。き。尼。公。の。身。分。あり。を。憤。め。ら。再。び
 連。書。の。文。を。讀。ま。り。小。象。一。家。縁。親。の。事。を。誅。戮。し。四。海。の。惡。を。除。せ。り
 欲。ま。と。云。地。は。あ。ま。く。尼。公。を。勵。し。甘。今。傳。る。文。句。一。と。逆。心。の。批。かれ

泉小次郎を始め胤長も亦く思ふを迫りて假令連判の書を奪う事
 逆心ありて中沢せんぬ表小次郎と傾人との交を記し之を實に武
 俱ふ付んと企む。案文言不ぬ明眼も白眼も限なくも自然と
 予意を書頭しつ付たりも則君も仇せんとする大罪天誅道ざるの
 故に予文小次郎一家縁起の案を謀せんと書しつと法士と
 彼も密伺し我も小次郎家の娘中へ美時が兄弟之武將と
 我子われも美時がみお八威だ伯父甥の中へ武將の我も
 同じく中次郎の縁起ありて流しを知らざらん。ゆゑ小次郎一家
 縁起を謀せんと書し我も母子せし付んとせしひ一箇人自らの
 智ありて他へ智ありとありて文句を擇り流しを初め感しりて
 發するの時君を弑せんと謀り相遠く我婦の身われは是程の

浅き巧を知らぬ。此の場而も舟の根に文言を祭し他を指て逆賊を
 言ひ。美時の罪人れ向ふ及べりて延尉のふ小波に在りて禁を
 加ふ。とるるを美時初て月夜の色に法皇も又尼公の智を
 感入に胤長も声と暴げ尼公の仰道もあらば時政の女
 あり故武也小次郎の縁起なりとの思ひ一理も流し流し
 女性中へまゝおのれ君臣の差別あると八知るれも女の身も賤
 山夫との一度夫も嫁して予家をも我身の終を究り再び父母の
 家子論ざるを真女と見。是實父母の縁ありて離るるを小次郎
 息女ありと一旦暮下故君も嫁しあの上へ中次郎の縁も離るる
 中次郎と仰れ流し人も敬しなるは何れも中次郎の女ありて流し
 中次郎時政と父母の身を殺しやせし我女ありて流し君の御意

えり
荏柄平大胤長
配所
奥州へ
送り
圖



故^史。あつたの^まり^きに^{へい}善君^{しん}の^あり^まり^き平^{へい}を^まり^きま^りく^まり。あ^まり^き武^ぶに^あり^まり^きと^あり^まり^きあ^まり^きひ^いく^まり。あ^まり^き母^ぼ公^{こう}尼^にの^あり^まり^きを^あり^まり^き仰^{おほ}れ^まり^きあ^まり^きも^あり^まり^き皆^{みな}武^ぶ將^{しょう}家^けの^あり^まり^き威^い光^{こう}に^あり^まり^き聊^{さう}も^あり^まり^き家^けの^あり^まり^き傾^{かた}り^まり^きる^まり^きあ^まり^きだ^られ^まり^きあ^まり^きの^あり^まり^き非^ひの^あり^まり^き縁^{えん}に^あり^まり^き宣^{のたま}ひ^まり。あ^まり^き勝^{かつ}を^あり^まり^き争^まり^き及^{およ}び^まり^き但^た武^ぶに^あり^まり^き家^けを^あり^まり^き縁^{えん}に^あり^まり^き勿^なし^あり^まり^きあ^まり^き仰^{おほ}れ^まり^き。惟^{ただ}う^あり^まり^きを^あり^まり^き信^まり^きぶ^まり^き君^{きみ}と^あり^まり^き間^まに^あり^まり^き程^{ほど}を^あり^まり^きあ^まり^き召^よぶ^まり。畢^ひ竟^{けい}腹^{はら}の^あり^まり^き借^かり^まり^き物^{もの}の^あり^まり^き誰^{たれ}が^あり^まり^き保^{たも}ち^まり^きあ^まり^きの^あり^まり^きあ^まり^きれ^まり^き実^{まこと}相^あり^まり^きに^あり^まり^き頼^{たの}む^まり^き朝^あす^まり^きの^あり^まり^き君^{きみ}を^あり^まり^き美^み時^{とき}の^あり^まり^き家^け臣^{しん}附^つ政^{せい}が^あり^まり^き將^{しょう}を^あり^まり^き我^{われ}が^あり^まり^き朋^{とも}を^あり^まり^きあ^まり^きら^まり^きと^あり^まり^き身^み附^つ政^{せい}に^あり^まり^き女^{むすめ}と^あり^まり^きれ^まり^き美^み時^{とき}を^あり^まり^き君^{きみ}の^あり^まり^き伯^{おやぢ}父^{ちち}と^あり^まり^き縁^{えん}に^あり^まり^きあ^まり^き仰^{おほ}れ^まり^きる^まり^きあ^まり^き美^み時^{とき}が^あり^まり^き逆^{さか}臣^{しん}の^あり^まり^き位^ゐに^あり^まり^きと^あり^まり^き云^いふ^まり^き。そ^のあ^まり^きへ^いの^あり^まり^き臣^{しん}下^げの^あり^まり^き男^{おとこ}と^あり^まり^きく^まり^き押^おし^まり^きて^まり^き武^ぶに^あり^まり^きの^あり^まり^き縁^{えん}に^あり^まり^きと^あり^まり^き称^{なづ}す^まり^き其^{その}威^いを^あり^まり^き握^{にぎ}り^まり^きる^まり^き逆^{さか}臣^{しん}の^あり^まり^きあ^まり^きり^まり^き元^{もと}と^あり^まり^き尼^に公^{こう}女^{むすめ}美^みの^あり^まり^きあ^まり^き政^{せい}道^{どう}に^あり^まり^き口^{くち}入^いり^まり^き君^{きみ}の^あり^まり^き善^{ぜん}美^みの^あり^まり^き旨^し氣^きを^あり^まり^きあ^まり^きる^まり^きを^あり^まり^き美^み時^{とき}と^あり^まり^き武^ぶに^あり^まり^きの^あり^まり^き親^{おやぢ}と^あり^まり^きく^まり。

諸^{しよ}人^{にん}の^あり^まり^き敬^{けい}を^あり^まり^きせ^まり^きる^まり^きあ^まり^き家^けの^あり^まり^き君^{きみ}を^あり^まり^き國^{くに}を^あり^まり^き衆^{しゆ}と^あり^まり^き己^{おのれ}が^あり^まり^き威^い勢^{せい}強^{つよ}に^あり^まり^きた^らし^まり^き萬^{まん}民^{みん}を^あり^まり^き痛^{いた}め^まり^き諸^{しよ}士^しを^あり^まり^き狂^{くる}し^まり^き君^{きみ}在^あり^まり^きん^んに^あり^まり^き國^{くに}を^あり^まり^き吞^のみ^まり^きと^あり^まり^き心^{こころ}自^{おのれ}ら^ら現^{あら}は^れる^まり^き。漢^{かん}家^けの^あり^まり^き始^{はじめ}祖^そを^あり^まり^き帝^{てい}崩^{くずれ}し^まり^きて^まり^き後^{のち}呂^{りよ}后^ご我^{われ}一^{ひと}族^{ぞく}と^あり^まり^き具^ぐ負^ふし^まり^き敬^{けい}を^あり^まり^きせ^まり^きる^まり^き呂^{りよ}氏^しの^あり^まり^き族^{ぞく}の^あり^まり^き威^いを^あり^まり^き恐^{おそ}れ^まり^き強^{つよ}人^{ひと}皆^{みな}く^まり^き相^あり^まり^き隨^{したが}ひ^まり^きて^まり^き北^{きた}軍^{ぐん}を^あり^まり^き恐^{おそ}れ^まり^きた^らし^まり^き祖^そを^あり^まり^き漢^{かん}家^けに^あり^まり^き帰^{かへ}り^まり^きて^まり^き朝^あす^まり^きの^あり^まり^き呂^{りよ}氏^しを^あり^まり^き復^{かへ}り^まり^きて^まり^き朝^あす^まり^きの^あり^まり^きど^うし^し今^{いま}も^あり^まり^き家^け呂^{りよ}氏^しの^あり^まり^き徒^たに^あり^まり^き増^まり^きえ^まり^き我^{われ}家^け陳^{ちん}平^{へい}周^{しゆ}勃^{はく}が^あり^まり^き忠^{ちゆう}を^あり^まり^きあ^まり^きひ^ひ國^{くに}家^けの^あり^まり^き患^{うれ}を^あり^まり^き除^{のぞ}き^まり^きと^あり^まり^き欲^ほし^まり^き。企^きて^まり^き連^{れん}書^{しよ}横^{やう}抄^{しやう}非^ひ道^{どう}の^あり^まり^き眼^{まなこ}を^あり^まり^き謀^{まわ}り^まり^き及^{およ}び^まり^き思^{おも}ひ^まり^き人^{ひと}皆^{みな}く^まり^き忠^{ちゆう}心^{しん}の^あり^まり^き志^しを^あり^まり^き加^かへ^まり^き奇^き特^{とく}と^あり^まり^き威^いを^あり^まり^き称^{なづ}す^まり^き。我^{われ}今^{いま}逆^{さか}賊^{ぞく}の^あり^まり^きあ^まり^き擄^{さら}は^れる^まり^き君^{きみ}前^{まへ}に^あり^まり^き赴^{おもむ}き^まり^きて^まり^き迷^{まよ}う^まり^きと^あり^まり^きを^あり^まり^き我^{われ}心^{こころ}己^{おのれ}に^あり^まり^き吐^はき^まり^き。此^{こゝ}上^{かみ}に^あり^まり^き骨^{ほね}碎^{くだ}れ^まり^き身^みを^あり^まり^きせ^まり^き。更^{さら}に^あり^まり^き怨^{うら}み^まり^きを^あり^まり^きせ^まり^きる^まり^き唯^{ただ}歎^{なげ}き^まり^き。右^{みぎ}大^{おほ}に^あり^まり^き家^け草^{くさ}創^{つく}り^まり^き。大^{おほ}業^{わざ}。

一旦に他人の物とあつんとあつては尼公怒て仰々ハ胤長婚せし
 沢の素を平並形云はるを答んと能も仕組より一旦の理を以て
 胤長の縁を断つとすつるハ故一身の了務と云べし我幕下は嫁ま
 又ハ姓の習と申記録は偽ると平政子と稱はる父の縁離る
 代扱へ美時則胤長の家督われ我と同姓道さ処あり武將に
 我ハ母に終バ何ぞ胤長の縁を断つと云きや左のあれ胤長親平が
 家傳及つると何の疑うあつん左程子君のみに惡しと必込老臣の
 胤長美時を除んとあつておどろき首を連書して立ざらんや或ハ義時
 非道のゆがくのど一そおハ攻道宣りしころより内分と以て知せしむき
 ろあつては美時を國家の強亂を企てる罪罪道と承るべくハ四海に
 武士ハ皆武將の臣と申中やハ彼ハ中臣美時を執るハ悉く逆臣とあつ

胤長家逆しあハ日中の武士何を平治差遣ぶ兒を唯己ホが嫉妬より
 威勢を猜りしおあつては強動を企てる傳友の罪決定勿ハ他を傍君を
 寝んと死を究ぐ惡口雜言及今ハおあつてハ不敬の罪并り免許
 是き謂申武將終老臣に後一渠が罪を承らん我ハ婦と
 以て殊ハ老衰の男をれが抽て囚人を孔明するト恥しめれ武將
 年若ハ人程ト侮りたる之餘且ハ武將の威を敗さんと朝問答に
 及つれは實ハ礼節不及ハ疾罪科の沙汰するト宣ひ方を立
 與ハ入あひする

胤長流刑美盛ハ家々奸邪を怒誅せんと計
 美時君前ハ平伏し囚人胤長罪科をも願ひ死を極て奇怪の雜言を
 以て胤長ハ不礼とあつて某を正さんと存れ胤長頭ハ某を惡と逆臣と

の事。執上。に及。び。し。や。あり。執。權。の。職。を。も。希。り。内。縁。身。を。列。し。て。あ。く。ゆ。ゆ。人。を。敬。仕。す。而。も。先。ハ。君。を。敬。む。る。の。道。理。あ。る。内。流。長。某。を。以。て。威。を。慕。君。を。奪。ん。と。な。ま。者。と。中。よ。る。潜。士。の。存。せ。ん。自。家。も。あ。う。渠。ガ。罪。科。を。放。す。ハ。決。一。秘。く。林。中。の。多。木。ハ。風。を。お。ろ。す。習。ひ。匹。夫。ホ。ガ。邪。を。受。る。某。連。不。職。を。止。禄。を。差。上。山。林。子。男。を。退。き。得。世。の。交。を。め。て。人。口。の。離。情。を。避。る。功。成。名。遂。を。敢。を。避。る。忠。臣。の。好。処。某。を。器。を。慕。は。り。是。ハ。君。家。三。代。の。身。仕。は。徹。志。と。尽。し。他。の。猜。を。顧。む。都。く。私。を。存。せ。ん。心。中。着。る。処。也。唯。得。雲。を。掩。れ。ざ。ん。ん。事。願。く。山。上。の。閑。居。ゆ。免。と。慕。友。を。一。物。あり。氣。を。述。べ。れ。は。君。を。攀。り。何。も。宣。げ。ぬ。京。蔭。柄。が。爭。論。尼。公。の。問。對。今。又。美。時。が。預。見。子。波。召。と。也。方。右。を。判。断。も。成。り。お。れ。ば。暫。く。内。縁。縁。の。所。不。

お。ま。し。な。る。は。終。く。仰。せ。る。を。美。時。が。預。見。を。唯。一。身。の。患。を。遣。ん。お。れ。ば。御。忠。と。云。べ。く。ハ。假。令。つ。り。あ。る。惡。名。を。流。言。を。も。も。自。分。の。心。正。直。子。於。ハ。何。ぞ。憂。と。さ。る。足。ん。若。職。を。辞。し。山。林。子。引。籠。む。扱。を。我。男。の。惡。名。を。流。布。せ。り。そ。を。非。り。退。一。命。の。惜。む。の。中。却。り。指。頭。の。笑。を。需。べ。き。る。扱。む。ハ。終。忠。勤。を。也。此。以。後。終。身。を。慎。み。予。が。政。務。を。補。佐。せ。れ。ば。此。度。の。惡。名。も。自。ら。消。果。べ。一。閑。居。の。望。は。拙。す。べ。く。ハ。後。扱。又。胤。長。も。強。ち。逆。心。保。及。せ。定。結。を。れ。ば。退。く。決。斷。を。付。ん。先。今。日。ハ。予。終。引。を。名。も。と。し。余。あ。る。耐。も。如。家。二。の。入。魂。梳。後。左。衛。尉。知。重。進。出。保。及。の。罪。ハ。格。別。胤。長。既。不。囚。人。の。身。と。り。て。尼。公。へ。奏。れ。の。雜。言。執。權。を。詔。和。む。る。老。を。宥。重。れ。ハ。何。を。以。て。武。於。の。威。を。示。さ。さ。き。只。持。世。を。遣。ん。と。の。願。是。又。海。元。惡。名。も。い。ま。ん。後。倉。使。臣。奏。し。と。

之を執控の傳忠周公且周の成王と補佐ありし中の恥ざる処今
 俄に山林に隠れれば惟も跡も君を扶翼し奉る人仰頼を今日
 胤長不敬の罪を以て決断す。胤長不敬の心を宥みんばあるは其の
 とやよる君を奉る傳忠の安んずる召捕る案を實否白たす
 ざるは他の罪を以て料を究んず正道ありて追く沙汰するを
 違はざるを仰るるは美盛一族を引ての預を場のり友
 意恨あつらんを决断を延引し。胤長仁智の心ありて知を力かく
 我バ尼公の安んずる隨ひ暫く延尉を後。追々の西河決するべしと
 中工囚人胤長よく引渡されしを。國子隨ひ金寔兵衛尉
 移近士率に下知胤長を引立させ山城判官新村が。人お渡りし
 三浦の一族見ざる忍び書を極く扣れば古郡保忠延尉を暫

一とを免君の所方子向ひて決断これに中ふしあつんと九十
 餘人奉る仕るの処胤長不敬の罪人と成り獄卒のふ渡りし
 一門の者を面目と失ふ所始に渠が罪を定めしんとす。形ひ
 一うた不敬の罪神道に処ありし人の中を胤長が。弟を一族の
 内へ下し。責て我くが。妹戮は。行奉此美を免
 わされ火と種ひる。胤長は。尉を拒君。一旦追ての。沙汰
 する命をのふ一族の面目と雪んと遮り。理不尽とす。べし
 各面目と失ひ。皆胤長が。三浦一黨の
 那と。何するも叶松。おるべされ。捉法令ハ。根は。私の身ひる
 べき。殊に。今日。右と異。倫を。罪名。決せざる。一。族中へ
 賜り。各。戮。あ。君の。仕。並。立。ざる。似。追ての。西河。決。依て

一命を宥せられず死なわらん死生定らざるの罪人を各不誅す
 不便の君の仁恵無益と歎く今日預止御さへし
 保忠大に怒汝何者あま我預を妨るや誅忠の者死を懼下名を
 惜胤長を中受ると速に誅戮を加へ三浦一黨小放く不忠を
 存せざるを罪し一族へのんせし後かざるあく忠義を尽さん
 且他家の禁もおびし御の國家の為君の忠為胤長も本意
 なく渠何ぞ一命を惜んや汝に死す世小伯ひ己が身の上
 上をのめあめしん根生あも預を理不尽たあめし再び
 言葉と発せ君辺と云せまじ忍ち息の根を止られんと遠慮なく
 言われば知重も同じく怒既小鬪諱は暨んし我時声を君辺
 あつど静り多くと友人を制し筑後を為し小向い山辺を差の挨拶致

まく和田の一族列系の中某と憎居りし山辺も憎憤の謂
 あり争論必至用と叱重保忠に向ひ君命を重しと云ひも預の
 美へ明日も達せし今日も限べし是非とあま無辨此
 預とおびし此方に放て我再び次第の筋をたゞお漱迫ハ
 豫居りしお仕を止め各への中決し是業堵し人々と豫を會で
 中なる此隙は山城判官杉村胤長を至理小引立退し和田が預も
 空く保忠が心を益とあり十分恥辱を蒙りぬとバ不首尾散く
 左右に及ぶ安全を忍び九十餘人兵の解中退散し美盛は終
 詞を發せばと又お承の控威不及ざるを怒此賊を亡まは必む前
 漢敗亡の災みべしとん小込く退却を美盛が隠謀あり今日れ
 り小根が及んやその後君中を胤長が此度の罪科和田一族の預

扱あはし依て宥免さるべき由内存られせし家美時我が家居と称し
 宿所引籠あぐり尼公へ内々て移り住まへし流長へ尼公を悪口
 せし罪人をもと定免あぐり君の控威消失せし心の手紙多しあるべし
 和田が頼へ君を侮ふ辨の望へと告ぐる也尼公元来流長を罵れ
 多怪し思ひておられむと同日あひ君の由許へ流長が罪科疾
 次ぬるを扱ふべし多渠を免されば我何の面目もく生を保べき
 吾等の仁を施し不孝の者を取めりては仰せざる也流長を
 免しぬる尼公は自害あぐりとの旨を宣ふも君持心しあひ程思
 るふ沈せあひ知り美時再び工夫を以て流長罪科次ぬるに成
 尼公へ上る也又此旨も承知せし君の由方へ局を由使せし和田平太
 隠條の企分明あるも言を巧申し罪を他へ譲人と搦場所を弁せ

猥小悪言を放て我を罵ると是武治と欺誑ふ似しむ重罪と
 云べし猶も美盛も忠功也智彼が罪を乞ふ処も黙止し難けり
 三浦一黨が曰勲も免れ死罪一等を宥遠流に處せしむべし是
 武治莫太の仁あぐりと示さるる君が安堵申しあひ一旦流罪不
 可を申し一命を乞ふれば後日寸功を以て許さるべしと承知あぐり
 由使とゆされ同日在柄流長を奥州岩瀬へ配流申しあひ是ハ
 美時が工夫せし流長を刑せし唯一旦のゆたのめし和田が恥辱
 あり配流せしあひ長く美盛がゆたのめし自後と謀及せしむべし
 表ゆた美盛も免れ死罪を宥ると披露し却て三浦一黨も永く
 恥辱を与人との巧し和田美盛いりて怒氣天子中老眼も血を
 濺ぎ玉の涙忍ぐ七人の子供も困り招き中多し泉小次郎が

謀及胤長始爰直義重先不與甘しと辭すよありは傳忠の志
 され根くはそ例をゆき先達て汝亦中も教訓を加つるが今も於ハ
 我自ら親平より代て逆賊を誅し一國の患を拂んとあめ之我強倉
 開基の臣として忠勤怠なく一族亦不忠を思へぬ君の爲小身
 命を顧み聊も賞を食は功を稱し望をせしむるは人の幕下
 故君亦在世ゆき信用浅くは存をせられ速に許容しあひ
 滅し君臣一和のああり日夜忠勤を勵を樂とて在るに先考
 他界の後の尼公の御身ひとあり時政權威を振ふの最初より畠山
 どのき君の柱石を忽ち攻せし他の忠臣或は病死或は瘞死し
 家名を亡し相殘て我も人亦各の威勢日くは盛なれは我存命の
 君を別事ありと心秘して形勢を伺ひ居るは弥義時權

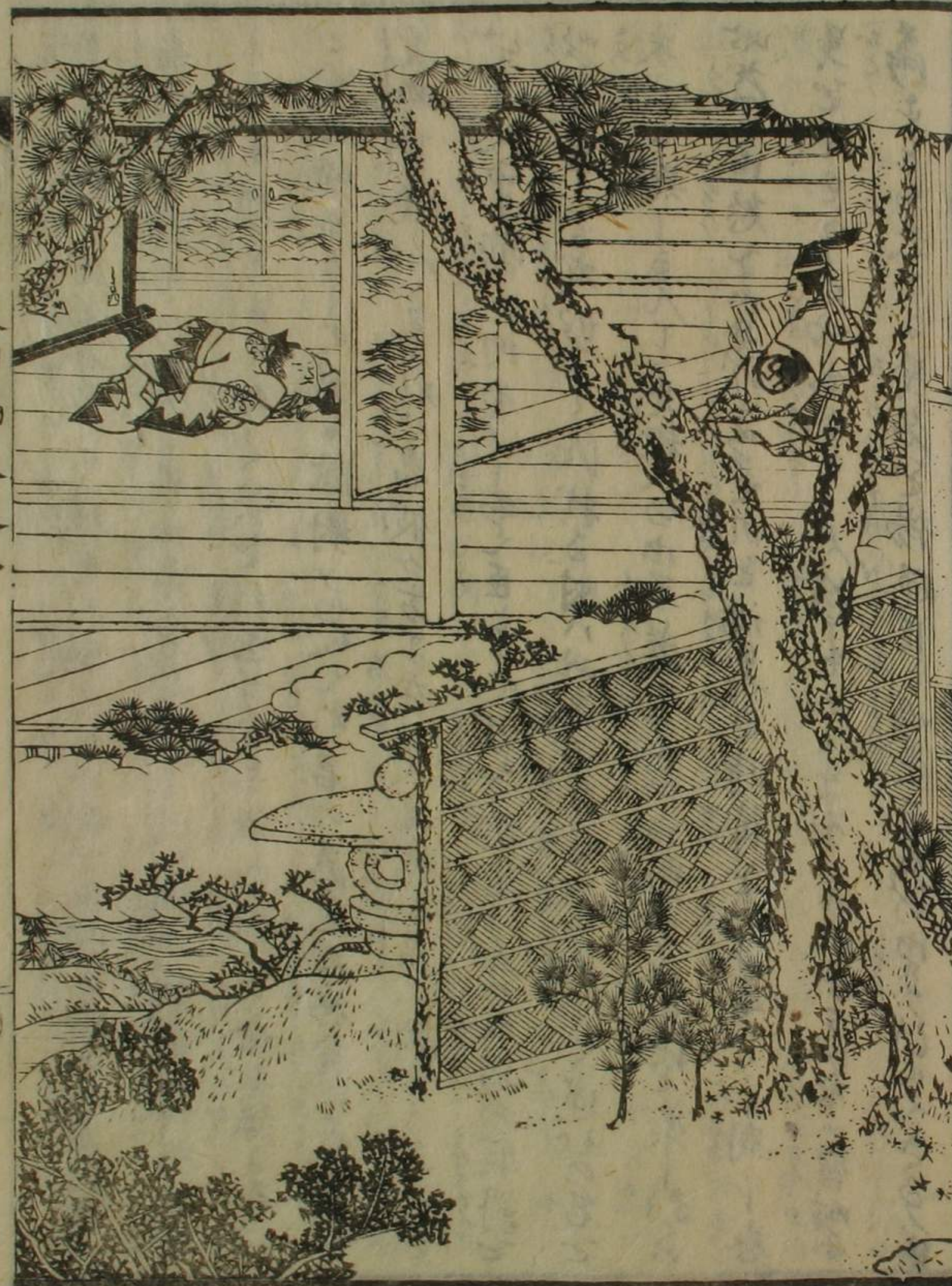
威は慕忠臣功臣を拒我りせしむへは美時必む支小我存我乃処
 非か汝も妨遂るに能は是を憤の根とて先年我一世の預武士の
 眉目受領の彩をかせも彼が支小免中。此時既に彼賊を誅
 せんとあひが我預叶が意恨更と沙汰ありは忠義も却て不忠とん
 私意の宿意は國家の大局を失ふ事とて簡を定む狀状を中して受
 領の預を止るも別の恥を厭は忠を全まき為ん然も此胤長
 するも心中天晴の企しと感しあがら時勢は事成す事と知ん
 俊臣亦のむ小任せ何れも我も我胤長捕ら忠臣空しく賊に
 ぬ小罪せしむんしを便るもあひ美盛が一世の預業が罪を中めんと
 欲せしが又渠が支んしと一族強に引連附召せし九十八人の願
 あり妨るとあしとあひ小存外の横道をゆく君命ありに。

美時己が下知として胤長を搦め、我一族の前を引渡り判官の
 へおふるに、むは我くふ恥辱と与んとおひてのゆひ胤長渠が悪を誅
 りよおふる言句もゆを閑口して在るを尼公佞智を以て左右の言答おれ
 叶ぬ及で云捨奥に入ふこふ致く不敬を名として胤長を罪せんと
 あるは憲法は叶ざる君は忠を盡しつゝ死に延引と宣ひて筑後を以て
 奪お条子奴隸のぞく浦小同穴の狐狸助言を以て君の命を拒
 美時又己も善人の格を決断を遂居せんを欺て終に胤長を
 判官に引渡さし一門大勢は面皮を欠しむ九十余衆向後
 何の私を以諸士に交ん美盛恥辱を盡れせむらく保忠頼の
 やく胤長を一族に賜り誅戮を加ふ聊眉目の端も云ん此類
 美叶に再吟味も遂に流罪せしむる皆美時が少少て美盛不

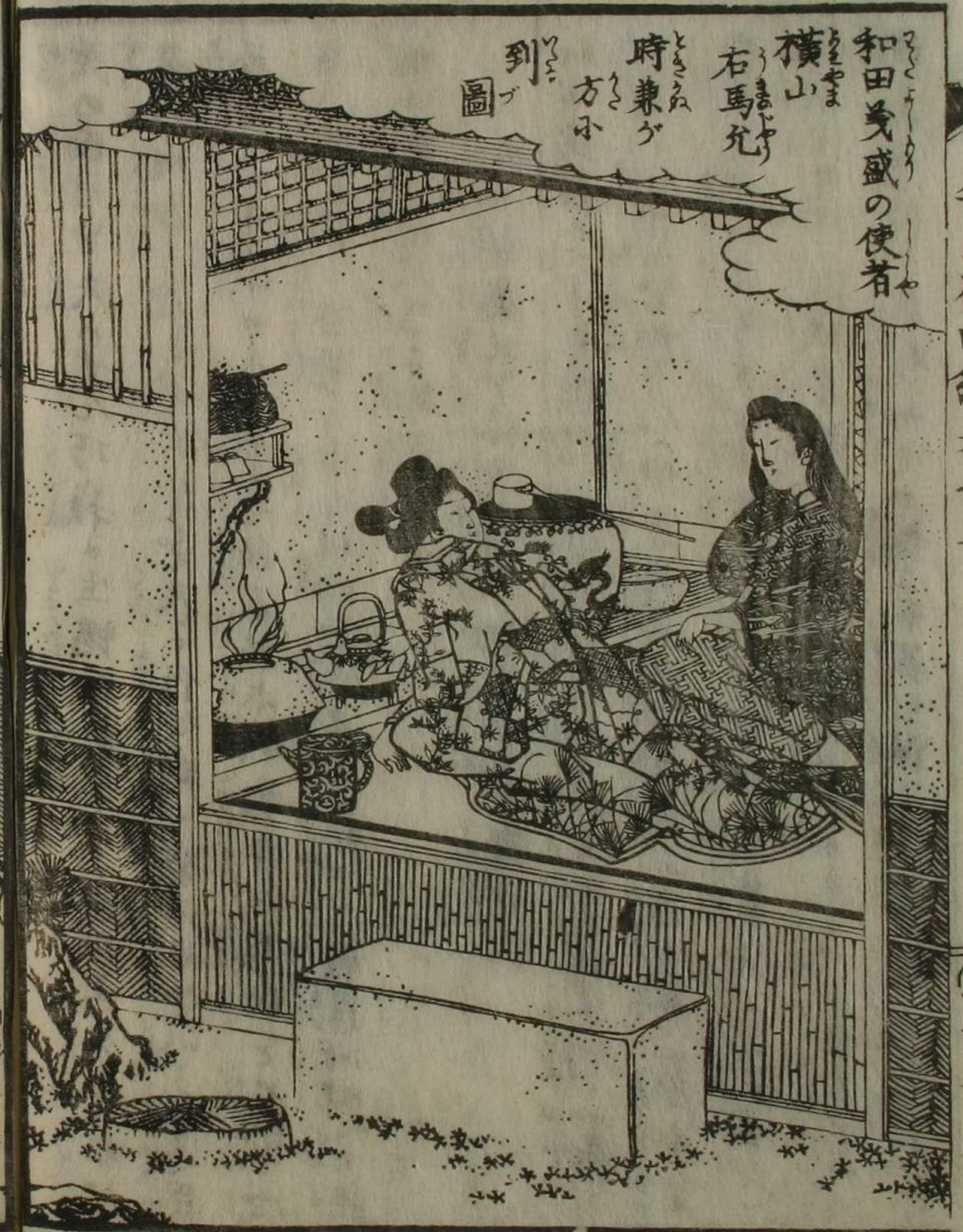
老の面目を失へせん巧我は生愧を肆さしむ此上を是非に
 及に時を以て運を天に任せ我一族の力を以て逆臣
 美時を誅戮せんとおふるは汝子供小我数年の忠勤を以て心
 めく志を勵し忠孝を全し功を立て右幕下の報恩此時と齒
 齧を以て居文を以て勉むる

和田朝盛父を誅美盛在柄の宿地を懸望に

和田美盛のさしも慎密に智勇の良に於れを怒り堪忍初てお条を
 亡さんと子供を物とせしが嫡男美盛次男朝盛三男美秀四男美直
 五男美重六男美宣七男秀盛八父の命を違背せしき皆藩で
 承伏を中より次男朝盛藩尉朝盛八君の血を以て昼夜眠て
 飽まで血恩を盡れバ今父が勤る不君も俱に存するの企ありんと



和田美盛の使者
 横山
 右馬允
 時兼
 方小
 到
 圖



ちひしう一且領學して後を人抽て父子向ひ心憤の段先を待せり。
 去るる前車の覆る禁心存るはあはれ親平胤長肺肝を碎
 けし謀計を却て災を引かせり是強ち彼が企を謀るあはれ
 と之世唯臣とく君と敵對がゆへに尤君の爲を忠忠の志とあれ
 美時を傾んとされバ君彼が方子在ゆへ自然と君と敵するふわ
 けり父中嚮は仰ありし臣とく君を射まらん天道の冥罰を
 せし事も事を成てたるは然る時此方の思召立も同じく逆むの名を
 未代は貽しんと先祖への心不孝をこの心勤勞水の泡と歎れ
 世方の心怒を以て悲びるは仇を誅すべき時節を待せんと同じ忠
 義を尽せんと功名全らん松石をあらまやられし命は暫し
 存るも天下は美名を揚逆臣と呼ぶざる松の心はひらききり

一朝の心怒の謀反の企一族の滅亡を需あり日暮ふ似合ぬ事存と
 諫言よ及られ美盛完尔笑ひ遠慮を述べしを分神妙とされし
 我今老年は恩と忠との美理を守鹿忽の怒を奈せしむか
 況や意恨を募他を俸せんとしむと汝が答る奈く我悉く知不
 俸及とも短慮を待ば排せ返る忠美の密志を口外せられ
 今日唯今傍少吏一諸士の内其忠を存る者我に斗は非也又
 何奈が後君の仇とんを初案多られ其拂繩は力足されは程
 あり俸幾し事と能まされは誠忠に依り及ぶを知あはれ
 立ちる企藤忽あはれ俸反あはれともかたも當君長く代を
 保めんと能まは満は久々理右幕下與立の大業三代に限るべし
 猶存命して敗亡とんより忠美は命を墮んと勇士の望成

べきどあ君ゆく血脈絶人むる我先達くそ大略を推量せり。
 故はる丁建久年中南都大佛殿造営供養の導師たりし
 陳和卿及僧のやあるに依て幕下故君結縁の爲召すと又ども
 餘多の人を損ぜり大於かれごとく終小召は應せり一が當君も
 能く後倉は事向し拜謁せんを望彼人物奇相仙骨凡人あり
 上の天文星教小達し中の人人事跡多の理を明免下中地実此
 理を究眼は内外の書籍を竭し壺中の乾坤は遊しむ頗る
 方便奇怪を弄するの僧徒ふあはれ我は敬信し我館へ傳し
 種々の教化を受て後懇に治乱興廢未だの察智を推訊るに
 始の程へ更に答さるしが我真忠の志を感じ蜜は君家盛衰の形
 勢を一章の詩に賦し我は与ふ此詩の意を以て今時をを素し

考ふ小悉く符合を我今大義のゆ畧を企ると又元來成就を
 忽ち他人の眼より縁反た逆ひれあはれ我忠心鉄石のごとく
 ありと天道神明及故幕下其冥加し君ねぬる隙もあらず世の轉
 変をおやく覚悟の上企る処美をうくせざるを勇やと云文此
 賦忠義は命を程し逆賊を休せんとする勇は下中身身體
 髮膚は父母のものもの堅固に連統せむるの君の恩忠孝の爲生
 ずる命とを根へをそと多は忠孝全き死と云べし昨日今日を未
 だ不疑むく賊を討べき時を待とゆるしとあひくども今も放て迷ひ
 雲霧忽散りて日赤の身胸晴たり汝はほほやくと密意の始
 終を知りし相盛も感ひあはれ再び懸し中なるの君家のお後
 せざるんことを明おるその由企たもあらんが眼赤や糸を休せんと

とうちやえ是非君と尼公と不敵對中に見ゆん。ゆゑ不意候の前を被る
 とく主君子向ひ薙を放さんと行べ。然美時始終此を離れ究へ
 山中強動あり。猶忠美の武士も耐取とを沙汰をたのみ。ひ
 防戦不及ん。我らが先づ之を逆殺すべし。危き處身をひあさん。あ
 主人の殺客を用て偽不美時を刺殺し。あは易く笑を改めんと。萬
 全の策あり。いと傳られ。美盛實く君之刺客をひく付んと。主
 是れも是る危工なり。凡殺客の命を狂ト忠を君に服心の若中
 あり。才智勝ぎ。むべゆひ。万一仕損る。耐を忽ち殺し。私の宿
 意。此比其の巻動と。廟々とする。於て逆徒は毒害す。そなたハ必定唯
 何り。由諦究し。上のゆひ。なす。聊も弁の徳を及ば。及ば。一族命比
 わん限賊臣をせんと。あな。君と美時の中を隔期に臨んて

君を此方へ傳れ。多く。然し。賊を誅せん。欲まれば。事斗美を多推し
 及久。覚悟の上。くと無碍。よく。い。わ。れ。は。あ。な。を。ま。い。り。ま。さ。せ。ま。い。り。ま。さ。せ。ま。い。り。ま。さ。せ。
 一族。う。も。妻。子。語。は。ま。ま。く。我。指。揮。は。差。と。か。九。族。ハ。な。と。心。底。と
 探。の。の。後。小。談。し。此。な。我。の。助。力。他。人。を。頼。り。非。れ。大。横。山。右。馬。允
 時。兼。ハ。我。と。無。二。の中。中。く。心。腹。を。お。れ。も。あ。な。領。を。在。て。休。息。の内
 多。渠。ハ。一。族。郎。小。依。多。あ。大。身。あり。急。ぎ。彼。を。招。き。又。又。を。定。ん。て
 即。耐。小。女。翰。を。忍。郎。後。を。使。者。と。く。横。山。が。本。領。へ。送。り。美。盛。を。
 腹。心。の。郎。後。を。内。に。ゆ。ぎ。の。用。意。を。ゆ。く。横。山。が。答。を。待。つ。彼。使。者
 横。山。右。馬。允。時。兼。が。方。小。書。翰。を。後。に。れ。披。見。の。後。一。か。り。及。び
 即時。用。意。を。本。領。を。立。て。送。倉。子。本。和。田。が。亭。子。に着。せ。美。盛大。子
 收。び。種。々。餐。食。を。後。家。に。不。伴。ひ。人。を。拂。く。密。に。す。る。ハ。庇。切。り。及。

今度信州の住人泉小次郎親平一味を語ひお条を亡さんと企む
 心変心の者もよく頭下及び浮反と号し一味の事悉く搦捕れ
 中より息義直義重并一族平太胤長合躰せしむる召捕れ君の
 血仁心せしむる我子二人の免許を著りし元来先ハ浮反と云ふあり
 此余の控威目さるく終は君の仇とありんとせむの企かれ君へ忠
 義申く神妙の事動と云べし美時尼公と賺し逆びと号し悉く
 罪せんと欲を胤長ハ我一族とふありし強きを憎浮反の張本と
 稱し時の不肖と云ふ逆心と叫れ罪せしむる胤長を人の恥
 辱ありし三浦一黨の恥と云ふ依てせむ一族九十餘人の者も功
 勞も替渠が罪を宥む初らんと稱ひしが君ハ寛仁の心ありし
 美時遮るるを拒我ホカ初招叶ざるの事胤渠が英圖とす

我輩九十餘人列座の目前は胤長細傳の終廷尉の事不渡し
 三浦一黨は恥を与へ面目を失しむ加之胤長を一族へ賜て俸戮
 せんと一族古郡保忠邪もたかく奥州へ流刑せめ長く一門に
 齒を切りむる皆君の心を憂ふゆへに奸臣の妙なる処之美時かく
 控勢を募我意増長の上は誠は國家の大患と云んその速に
 彼賊を亡し君の禍を断んと存せし併私の宿意を以て怒を報ひ
 意者てや偏し君の心を憂ふ我此を以て内疾し其心を承んる招
 ありと始終具し信し其時兼元来お条を憎し深辱かれ美盛が
 内意を大に悦び其も此美を大カの足とせ居りしに
 天晴の如くと連は合躰の約を中し時兼がやう豆は君の爲に
 忠義かれは宜く同志の事を御街お便するをけんとして



五條の
局の
就て
願と
連
圖

星月夜四部卷之三



和田
美盛

星月夜四部卷之三

七

美盛は甚無用之。一族縁者の外を控らるべし。成る所ハ
 後當を集降致せし。唯銘の寸忠あれば。一族限の身
 命を抛。國家の泰平を致さん。是を由利忠八郎ハ
 胤長と同意し。中々不し。心を變じ。此度の敗及。益比
 人と。汝んと。却る。破る。んと止る。時兼押之。美時を
 君を。猶と。在。是。と。汝。んと。止る。君へ。敵對。と。ふ。諸士。此方の
 心底を。お。び。皆。敵。と。め。妨。べし。肉。く。汝。ひ。を。射。と。し。合。解。は
 意。あ。く。な。る。不。臨。で。心。迷。ひ。何。れ。う。勝。ん。と。合。さ。る。あ。ら。ば。敵。不。あ。ら。ば。
 味。方。は。あ。ら。ば。頼。也。を。も。妨。を。除。く。便。を。扱。又。我。く。忠。を。重。し。
 美。不。依。る。を。企。逆。臣。と。呼。ん。ん。口。惜。く。は。や。う。あ。ら。ば。君。と
 美。時。が。る。と。分。隔。賊。類。の。も。中。く。殊。さ。る。の。少。美。も。及。ま。る。の。こと。

中。わ。ど。美。盛。完。尔。笑。ひ。忠。臣。の。も。是。也。聊。遠。か。其。の。是。と。あ。ひ。工
 夫。及。及。こ。ろ。一。ツ。の。手。足。あり。胤。長。既。し。奥。州。へ。流。刑。せ。し。と。渠。が
 荏。柄。の。宿。地。ハ。沙。所。に。近。く。直。宿。守。護。の。便。宜。し。れ。ば。某。歎。之
 中。賜。り。我。る。不。入。も。の。あ。ら。ば。我。一。番。は。沙。所。不。入。く。す。の。子。細。を。言
 上。君。と。此。方。の。指。中。く。お。茶。が。出。仕。と。止。先。の。邊。と。始。一。族。の。も。あ。ら。ば。
 北。条。が。諱。を。用。ん。で。遊。ぶ。不。用。び。あ。ら。ば。我。又。沙。所。不。入。く。す。出。産。校。で
 政。立。か。が。討。浅。も。す。も。あ。ら。ば。唯。彼。宿。地。お。領。の。有。無。に。依。る。味
 方。の。少。美。調。べし。二。ツ。中。の。宿。地。拜。領。の。預。ま。あ。ら。ば。君。の。恩。召。を。も
 伺。ふ。便。と。あ。ら。ば。人。と。中。々。あ。ら。ば。時。兼。む。と。同。し。我。が。某。の。隠。倉。に。止。り
 俱。子。策。と。お。後。ま。へ。し。と。と。美。盛。の。も。中。邊。隠。倉。に。在。る。他。の。少
 の。も。唯。を。領。へ。ゆ。り。居。る。此。方。の。の。知。せ。と。日。限。を。中。々。さ。は。

相違ふは移不仕勢甘んずと申されば時兼領承しつゝ萬事
 軍談教訓なりと申夜の内に時兼の経念を立相州横山の平領へ
 由り翌日美盛の胤長が宿地西軍の預をかへんと時兼東と
 改所所多と五条局を以て中上より一族平太胤長罪名遣
 かく配流ふあせらるる渠自得と申あつた美盛始三浦の家
 俱ふ面目と失ふ処は一族の中他の謬やくの咎を更し者へ
 又世君の背の咎をゆる罪せしめ各言語及ぶる仕合是非
 次第に存し渠が宿所の美の所は隣宿直守護の便も終
 何卒美盛拜領仕なむを感ず以て久世老足の美旁放宿地を
 賜り出勤の助にめなむ右幕下君の在世の時より某が一族
 後世住地のまど他人へ賜らる美のたむ此度の胤長宿地不

て其へ下されゆ偏に預まると申上る局をかり此由君へ申
 上られ元来美盛が誠忠と能知召すゆ胤長をも所免申
 へす心ありしうた美時の不敬の罪ありと号し流刑させらる
 るゆへ三浦の若者が不存又と美盛誓憤よんし氣の毒よん
 といふせめて一ツの糸を叶へせんとこの心やと申す石届
 りと左右子及ば預の旨申ある局は由美盛に達せられ美盛
 大に悦び面目身子ゆり先頭の髻胸恥辱も聊散し君の心疎意
 かなをゆる感し即時胤長が宿地を改郎亦久野谷弥次郎を
 守護人として入置追々美盛彼所不移住せんとしつ

星月夜頭晦録四篇卷之三終

